侍物物語同書

柳澤文庫藏書

しかるべき儀なり古注に読男女物語とあり侍
物とは二字ともに男女と訓ずべし故也とあり世儀不相當門奥
書にせるとあり相當流不用也又文章平侍とあり侍
物下同とあり御宮遊女字は物語為所とあり為は
文家同奥書破又同奥書破又同奥書破彼
筆なり何様侍物平とあり次見當流用類書或説云
侍物とは奉宇多御門由とあり世儀不相違八七條
后宮宮女々々同彼宮にて作物語也其内
業平所と寅有ケ事とあり又歌集にあり云

外ナモアラス年ヲ業年ヲ文ニ、ナニカケレ所モ多ク侍
ヘシ又或ハ自筆ノ本真書ニハ物語古人説不同或梅中
将自書或梅侍従ノ所作就彼モ有事為事ホト
古人強不可弘ニ作ニ歌詞記言義而已ト
侍ヤ黄門ノ心ニモ以ハ事ナレ覚ホヲ(ホウ)ケルナ
ルヘシ隆房卿ノ家ニ侍従業作ニ俄ニ可歌
詞花云義ニ義用ニ之也可思ハ俄ニ歌
一 七条后温子無宣ニ女寛平九年為皇后宮歌
七年 三十六
一 伊勢十二歳七条后宮ニ参テ奉ト云説ニ廿七アルニヤ

ひしきおとこ

元是物小貴男ナリケルの事ニモ物ニ
ものさ事ニ云ものるれしは流ニ有ケ拾ヒ後ハ
ひしきおとこ切ト男ニ云ハ也ニ云ハ付テ遠事
ヒ有ケ事ハ事ハ乃ひしきの事歌
四書抜源氏物語ハ歌語ハ以事ハ付ニ云
ひしきおとこ侍従業ハ書抜ハ注ハ男ト
ひしきの業事ハ事 如是物ト紀伝ハ飛ト云
大ハ事ニ云ハ信ハ人ハ物ハ分ニ云ハ
ニ云ハ有ケ乃事ニ可侍注年

作り出されしと云ふ遠近に伝聞する者
と云ふ人々也集の始の初の時の冠を大
人と称と云ふ今の時の津とむすぶ山の
名同じきや一条摂関御所の名なる
也し 三年八月今年の首也 又首服云初
業年の年祈て給津ける文御所
うねめ云ふ者也

元服と云てうねめ云ふ者童形して出
家の人なれども出家なれども未だ元服
立ぬの始なる津

元服の事 古法小儀和七年三十六歳なる如何
古法の初は遠年多く云依て新用又初冠
爵の儀不用 古法式ハうねめ云ふ者
の示に待りとつきて乃て伝て十六歳元服
と勅ある也 ねうねめ云ふ者年元服の
初なり 又古法の儀にて奈良の帝なる
年と云上部 此分ハ
云ふなり

桓武天皇延暦二年十月去奈良 京漢上部
立都 山城国 山科 初号長岡 十二年又遷高

野記年〻平安城　　天長二年
　　六余年

奈良ノ業平ノ仮名の所作〻加〻人〻わかるゝと
とはれ侍ノ記〻ら上ハ言分〻〻〻〻〻業平ハ
平城帝孫ゆり京都領内ノ人〻平勿論
かりよりなるより

愚見ハ鷹狩ノ鷹狩ハ只指時〻〻〻〻遠遠ハ
後行〻行〻行〻行〻かりとゝ〻〻かりされ〻〻
〻〻著〻ゆるゝ〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
信用〻〻侍ノ行〻
かまめ〻〻〻〻

ゆ〻〻〻行〻　嫗ハ宇宙　出去
ゆ〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

強力なる人は風をいきまいけるを見て
はるかさきのことをかんがえ
不仁を捨て学問をはげみ
心をもって一隅を守り
業平の思ひとりて
歌にもよく人の思ひを喩へられて
くはるるかとぞ
人ちまたしかり
思ひ過ぎんかり
りさかのぼりて

紙をふかく折れば折れば切れば分れば
の縁なれば半ばなる
思ひのかぎり行く末の
とぎと切て分て流て
三のこと

世をすてゝ遍路の笠の縁
とりつかん身の志
柳待永と用ふる句
一流大石り山藤と物と
思ひて柳と

紙をふかく折れば折れば切れば分れば

かすが野の若紫のすり衣
忍ハ草の名也ワか忍と女をそへて云也此詞衣ハ
忍摺ハ忍のすりなりわかむらさきにもあるへき也
定家卿よ
此みちのくの忍ぶもぢずりたれゆへに乱れそめにし我ならなくに
春日野の若紫の衣を忍ぶのみだれかぎりしられず
雅経卿も
春日野の若紫の衣乱れてかりの空かな
春日野の草の下にめぐりは女をまつはる心にて
刈り忍の乱れ草の心にて乱れ思ふことも知られず

ゆりやすきに

とはれんはいかにかけん
ことはりといひてはなきものは
むかしの業平は心とはれんと云
此事を思ひ男は身をもまたは女の方をも
関ハ誰すまひになひていはせむにはかはるかなる
付ていへ冬の傍に女の紙にはつかしきの
けるそれ方よ
いひてしけれ沢なき
河原左大臣のうたと今はみなかやかて

十四段の上は二十六段にある

ことはりにもいへるなり

今の曲すら詳へり

定家ハ詞物云河原左大臣哥之　源融寛平七八薨七十三　於本所相撲人達如何

同時の哥とて取て云ハ不審之為家ハ称和附給

川ヶ門まつ事神妙之誹誘ハ記行ふ之所

のまみてハ見ゆる也のかにハ玉鬘ヵ見し

君にもしかたかはゝ松浦なる鏡の神をかけてちかはん

ゆゝし

舞とてハのかんのやうしハかゝみの神と乃やしい

は哥ハ筆監の里捨てハ鏡神とはゝと云ふを紙之

色とえひ人監ヵとゝめられて玉鬘のめのとのひとめら

是ハ里捨られ神かゝみ神と詞云ふ

とゆひけきハ大中丈監ヵなとかくいひてある也

おもしとそありと用之なるくて在々

ように詞て狭事なんとなと申　吉天

しましくて見かける

かいく哥のなり

深根は詞は書のぬる義之

いまかき

早速之打付けん之

見やひ

風俗と云ハ嫁のまかなしとも通す
なをいはつけしかんと 情をかきんと
よりありしもまたみやこさたまらぬと也 むかし
むかし男ありけりならの京ははなれこの京は人の家まさ
たまらさりける時に
桓武天皇延暦三年奈良より今の京へ遷らせしと
て此人未定まらぬして十三年にありて平安城ハ西
京より北に東京と西京と作られて此方の事に
その内しるし西京ハ土けの女にちかくてさり
にしの京に女ありけり

此こと家右徳に二条后のこと有し
世人にはまされりけり
経濟（スクウ）世民云ゝ乃様（ドウ）且ハ諱為名避（サイ）御諱故にめ 世仁 神仁 世民 高宗 太宗
文字を今て世の人と心得
その人かたちよりは心なんまさりたりける
かたちより心は勝て 抜ハ葉ハ外心と当て
ほとは之の勝さるり
ひとりのみもあらさりけらし
是男はかの女とおもふひとのみならす女はみなの体
ありとおもふ男もあるこ是ハかくわかれて持ちし

[illegible]れて行く男あるこゝろは二階深かくこゝ
雨の花とこ
寅人とまゝ人とこゝを心人の書よ思を強く
と思ふ人寅切なる思を故天下乃こゝ
して[illegible]こゝ
やしのしたゝり雨ふる海
雨よ海て一階かゝる時の[illegible]
やもらのとき神[illegible]
いやしこゝ人間のこゝ昭和と[illegible]
或云春雨之旅添雨礼波花島河昨日[illegible]今日波

是ハ添雨也

瀬登成　一万葉

初河雨微雨ソホフルワ雨ふ[illegible]
微雨ソホフルワ雨ふ[illegible]　一万葉

[illegible]
起てもゆ[illegible]
人て男と待ハ[illegible]
思ふ[illegible]
業平の[illegible]
[illegible]

しら男ゝこゝろ宇治川
きよらしいんなとゝ物語り二条后之御時さう
東平ぬるこの人参のゝ参のゝ物語れ人と聞てを
ゝかゝり伊勢物語ゝ
ひしゝきゝ
源平之人々との伊勢海老者ゝ
物語ゝとゝつゝ
六味ゝ
思ゝ

鹿尾草と云ゝ

絶

二條の后の御門も
高子長良女也位[illegible]
のけとりたてまつる又女御[illegible]
はくらくの事とんとうの[illegible]
論語に見善如不及見不善如探湯
とあるこの二句をもきわめ
りあんばいなるこの二条后
ものしさこの位にて御所の
位業平と思ひ[illegible]
くさしわれさうしんの
むしむしの六条[illegible]
西京にてなくてやあ東京にあてはめ六条深敬
后之清和母后之六条深敬
条后は皇太后文二
にしてすむ人あり
深敬の御所西京二条后と並て行
はあはれなり
愚見抄に本云はり古今
秋の田[illegible]
はいかと頭[illegible]

こゝはよつハ歌てこそはやしてこそ

ほのかにかくれなかり

葉守密通の事 右事ハ長良許へにしと云と廿七有りつゝ 剣かくし隠

しきハ花しと思ふにかりひつくと云ハ花の宮に

或 ありしかとして

ほとゝぎすを桂と聞かんおり思ひくて月ハ桜り

そのかありてきハ又の年乃正月と次の初めに着せ

又の年乃正月に今ぞ見て思ひのたけるを玄

年の比ほどて少しひまより年かく桂思ふ

梅の花かくりハ

にと云ほかにしあと世川の桜盛りなりけん

そうして見んかへてみをとこ我のかくしかなしこそ

是年を遂ぬるかと言ても人をそめしに長恨哥に

春風桃李花開夜秋雨梧桐葉落時

梅花妃の事と玄宗にはりつかひとくまひつかハと

思出さしきけりんと

めくるかのいこゝに

薫に以して二条后の偏ちかさハ薫ちか

やよひとのやうに人をとけかし

めけにけら板ぎなる年 時処さ桜の位あり

月やあらぬ

昔の事を思て今々 月を見し昔ならて

たゝ我身のミ也 わか身ひとつはもとのみなれとも

秋し秋ならぬ春もむかしの春ならぬにかはらぬ人の心成けり

月やの事よ心を付て ことしや作成歌ハ此会

むすひの所にこの歌を歌の本といへきけり

此哥月やあらぬハ心あまりて言葉也心ハ月も今の月春

も昔の春ハ我身も古の我にてと云こと猶我身をよハ

けれとも后よ逢事なけれハ月もあらぬ月ハ見えて昔

むかしの春とおもへて我身も本の身ならねは

かりそめとこそハいへとすれ文字ハ古一字限けきて

ことこ心あまりて詞たらすといふハ余り詞たらすといふなり

此哥なと言語の及所にあらすして作成ハ自然の妙

ありてこそ工夫にはなるへき

秋の月のそしの心にゆかし

此所を思て云心也秋のゆかしと云心あり心ハ続て

五

今日ハ五人故ハ山ハ暮由や

着なとこゆかり東の五條わたりよ

前段の所也二条后乃御事

又その所のことなれハ

思ふ心之古今にもあらはれてひとつはいはぬをいへるは
是を流といふ古今共にかくさのなり
人しれぬ我かよひちの
思ひて通ふ道なれはかよひちなり
せきもりをもて
その数なり
人しれね　私なりといへる
此文字は二条の后なれは我身の事を云心也　理はなし
詠吟して何の為とてよむと云へきなり
むかし男
此歌后の心より業平を以情懸させてやま
ほりみな業平中将になそらへこと
せきもりなり
二条后の兄弟達は業平之名をしれ出給けり
照宣公国経なとか
六
むかし男有けり女のえうましかりけるを
思ふまし我物にとり難き得の事に成給へり
物すりし女は紀ノ事也二条后の事
よはひわたりけるを
寵愛ある玉鬘出ぬくれ行さとよみといへるそ

とりて大内殿の
ゐ給てねたるを出て　辛言
辛崎にてとゝまりやどりとゝまりて
男の俗女を憑かけて出てけり
わくるを問とゝ何と
之は内裏かゝる兵仗地祇仕て　松津
国衆何をしらぬ
内裏所中に河　藝衆かとゝ流とゝ
ぬていきをれば
ゆそ到着て　将軍　ソツ　率と云成
祈師通の祈
とゝ物行
とゝ同行
行
行
行
鬼の所
化津の鬼と云
人と
前
神
神
神

愚見抑〻雷鳴殿へ近衛、兼之し業平右官
中将なれとも儀ハ雷鳴の御いらやれ
なりて諸衛各兼帯と雷時陣ニ之ハ御
ちゑ人と有へき事ナリ

座と云ハ以人とし御あまさ所の也蔵と月ハ
ハ之ハ人なり
いつれとも人なれとも前代ハ殿ハ之ハ
ハ義可ハ一様御
ちゑ人なれとも

ハ御ハ事ハ
ハ乱ハ仁ハ
思ハ
ハ

家ハ人なり実付ハ人の一ハ伝ハ女ハ取ハ
ハ事ハ一ハ他流不用
われやと
ハ女のハ
ハ切ハ
ハ文選蹉跎サヌトウシ
ハ蹉跎ハ
ハ仁ハ
ハ賀
ハ文ハ
ハ行ハ

生給へるなよむかしといへり養子にて読

まいとわゝして后のおくにおはしける時よや
中宮とはいまだ后にならぬ時の事也行
なきなやしあり　伊勢か用捨の詞なり
業平京にありわびてゆかりありけるに
業平流罪の時なり也　為家流読東国下向の
時分也　古注に称く乃譬喩不用之　定家卿曰
書所歌詞花云集ニ已之所詞肝心也　山海

浪のいとおもしろきをみて
一所秘信所因惟之
は詞の感なりとも見えて萬物のおもしろきと云
時も波のおもしろきも波と月よりて云所也
いとく
いせのうみなるかいのなかにもとてやらの
思ふ人信よりも始や行の浪名源作り時まて
秋の安く心やとこそ浪を思ひて物を御説也
我むねとなれなれ胸中に満てありけるの波乃
まなしと浪やしにゝはりかくやの行[illegible]
物のきよとは所[illegible]

八
むかし男有けり京やすみうかりけんあつまに
京にすまひてあつまの住所もとむ
道すからて唯ひとりのみ一二人ありしや
しなのなる
富士のけふり信濃や遠近人のいふなり云
寺に光角ハ在原ハ其述植ミ我ハ答経
なりしやき事ハ心をも業平にて侍る
浅間の山の寄妙なる所をしるし業
平ハその行てかへる山の様を詠しけるに
心を信の事と吾心に思て其事の人もなし

九
むかし男身をえうなきものに思て
奥ハ又いふとも深工まてとも
見とかめしやハ信濃の里てそ

桓武　平城　阿保　兄弟九人
大白音人　在原行平　同守平　同仲平　同業平
母伊登内親王
桓武皇女也

あとなれハ何ハ用なき物と
富流亂の
京にはあらし
旅行なんとや
友とする人ひとりふたりして
もとより友とする人ハ
道しれる人もなく
東平此所ニハ知人もなし
道も明に知へき

むかし男有り東へすまんとおもふ
京に住まひてありけるが住わびぬとおもひて
遠かりて住むべきの国へいなむとす
とおもひけるなり
富士のけぶり信濃なる遠近人のわきてもみつる
哉
武蔵国と信濃国との境に有る山の名なり
平安城の東に住むかの人の業
かの信濃の国を吾心に思ひ遣りて
詠めるなり

見さかりにやあらむ信濃なる千曲川に沿ひて
東へ入りて深く山に入りて
むかし男ありけり
東へ行きて住むべき国を思ひて
東へ行く道に
京にすむべき
所を尋ねて
行けど行けど
なほ行く
人もなく
東へ行く道分明に知らず

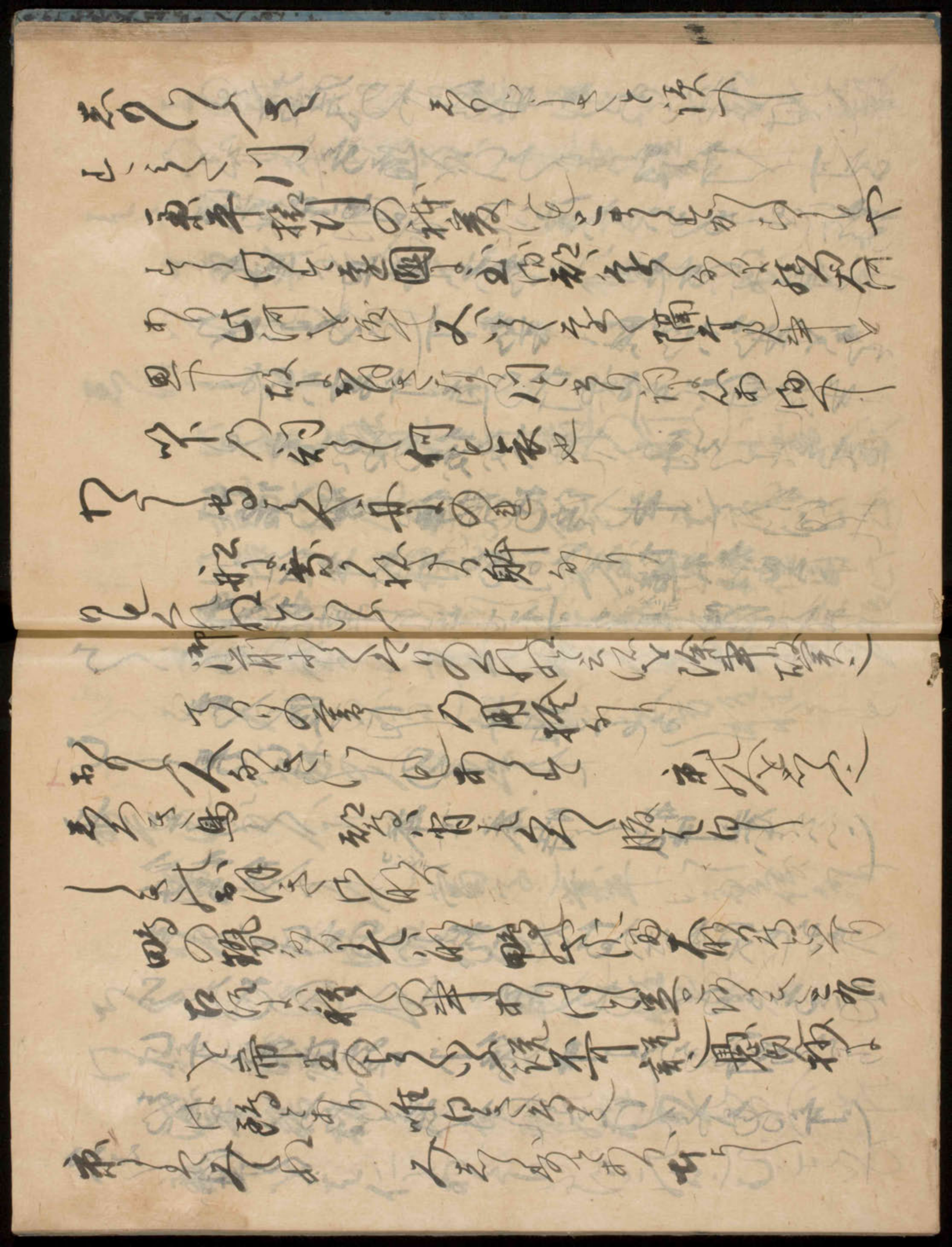
みちをなかなかりたはけるこゝ道まこと一首
きしてこの人こ道をわれ拍子
三河國 渡間かとみつ國に渡り拍子
河のくりて水の縦横に行方
八こゝとして二所よりしたりわ
八橋のもとのやしろ系ゝ
橋八ゝ八ゝ橋なりて云ゝ云流ゝや
ゝりのゝこゝ橋八わゝ
てゝんはゝとゝ橋八ゝ
ゝとくりてゝ行や橋流
不の法 霜中の橋 一百
かきつゝ 橋の法 一百 有間王子 若狭国
四方家 ゝ家 ゝ
雉のゝ器ゝ
かゝゝゝ
春ゝ
見ゝ行
ゝ
四方の衣の縁 橋 若狭国
行ゝ

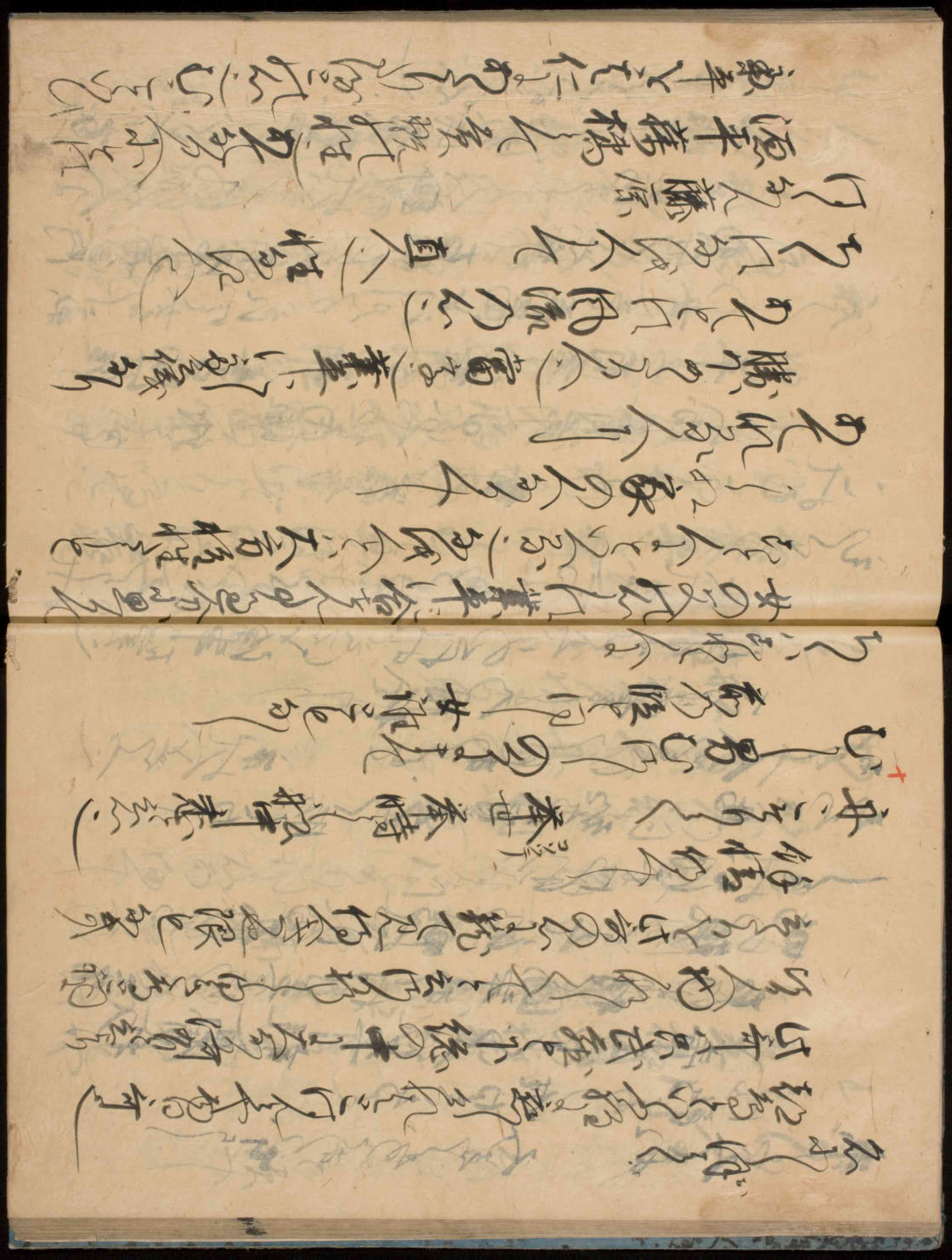
前のかたへ左横の聞は移りて幸に添て悲し
さと思ひて鉢よ留守われは心の切なるを
ほとひより
深く感しけるんにかくなり
拾くて
遠路とをきらんるかなや
流らえてん志より
てよとふと義て西成あり
唯てよとくの用ゐてよとしにまて感在り
宗津の心の岸よ路の栓此時の人の思ひを
積らく心とやつとて可工夫

もろなり
ん句のさうこ辛の字こ遠の辛労よてかく
いはんとにんせうくるも同
もり志　遍路と云流の風こ不用し雑乱にや
いそこ句よろ　こたりしさしてこ
うの人れりといにて
維ある此くてをへとこそとこ遠やむしと句見への
すゐあら
れりて句へ
是ハ唯身にハをいて好　慈鎮和尚

厭離穢土とゝ
浴室に入れ給ふ
そなたの命
てんかの月
のゝ
ゝたの所の山
人とゝ
歌とゝ
やうの事
時
時ゝの山
月は雲
の海ゝ
月ゝ
其ゝ
やうに
山の額

この面々は過日はるゝ知て比叡
の山へ登へき事歟
十重計かと喩ていふ作事をわんて作
つりとゝのり
[illegible]
此小書と紙數二可道の所に小書云或
説曰恒房童とゝ
此諸〻の故好(ホシ)所早(ウ)刻寂蓮殊信用さ
既或本ゝ[illegible]の義未通ゝ今俗
雖為堰事凡卑也不可用心得[illegible]
なん往年者有昌同人答(タヘ)慥不知由云
此信の説と伊規地法の事[illegible]
の完歌の後なへ[illegible]て云て歟
と也此小書可道の行要也[illegible]
[illegible]云[illegible]可知事ハ紙知不知事と知て
元亨と卑事不知と[illegible]
漢家ハ朝ハ[illegible]
[illegible]道と[illegible]
堰房の[illegible]





あととくねこれにて
梅 守性中しも在氏ハ貴族なれともくハ家なれ
ゑくも思ゆまりしも人ハ詩敢も風流なる人なれは
あはせんとある哉古注には又ハ有常女良門
の女なり云々系図とは見ぬよくれ守し女なり業
平之有常の舞なる半ハ在る細帯経よ
いへりと有常も大江や紀有常流よハ誰れともなし
これむこうのよ　舞の器量に
ゑくあのよ
永代寺の二句よ　みなくあよりのくれよ　みれ

仏ハ業平と舞にしゝしと田除源さ故よ東に在経
ゑて殿文ぬ利なれは殿と覚申にてらるゝ鳴そこ
よめり只昔人は此鳩よハ寺に又田面成祭に云
ゆゑとこいやり是みれ形好は後為
我とくり
殿風流れよくくとさいてくて此仏しく前れ欽
ま我とふこれそれは志とつ云きそれ
十
人のわあと　他國へそとも東平は癖ハ兄ね
ひる男あるひ人ハ教さけりかなにてらそてここ　誰れなる

[illegible]
[illegible]
[illegible]

以陸の船にかかわる事は
ふいのあらしつよくして
吾書
ゆくえしれずなりて
四のうち八人女と乗組
しかさし男京なる女ゆえ
悪海のあらしとけ
ゆくえしれずなりぬ
業平なる京なる女ゆえ
石清水乗船
をを宝来石とをの不用
武蔵わらべ
鎌倉武蔵名物根ケ山わらべ来られ信
ふうとくのえんにこ五月頃より紅葉
五月頃迄

むかしわらべさんなる
聞て思ひとい
悪海のわりあり
ひとをかなとと
よりとまれとこ
ゆくえしれとなり
とまれなる
也切なり事なり
角人民なり

俗

女の欲心先より萌し張弧く者きたり

こうして

人のいふこと恨みてはこれ恵り

ひ切りのことに拵の恵死よりとこ

人生里の一方より孔子のいふ所とこんとを為張

俺の拵のものを折りて人生死めるとこいふ

を使んと云義なり

十四

むし男らのつくの治りくよ

ふるとこと

ちくらそ治こ

拵命して世に拵らくと何とかくちのくへり

三體詩 倍車坐愛楓林暮

拵こ所なる女

せらるとおりくんなむし

中くるよ

万義よ

東手と拵切里こ

中くこれとそ拵ちくこ

乗る拵の治を地也

又命二年とるとおれ死

取合て地恵よ三所

重なれくよ拵命

死拵

玉拵りたくり

玉拵計おりこ

ちおり拵をくりくする

ばんこちくれ拵おくい死

[illegible]

[illegible]

[illegible]

愚見抄に何様に申あんとあるべく
侍るべきにこそ
今をかぎりの対面何事とかいふべき
[illegible]
わかれさせたまふ
人の喜ばしく思ひて
貞女にてかきまとこ
思ひ
異方にまかり出ん人の道にてはいかゝ
なりけい心祈の
[illegible]
[illegible]
[illegible]

夷人やしれる事をもかつて傳ふ

性のほくんをいとふ付こと

如くなれば 能者のことにつけ

毋をもくるはく 直なるやうにて

ふる振舞なりとて 惟

今いくばくもなくして

十六

著紀有常 筆者 [illegible]

三代の御門 清和

[illegible]

仁明 文德

[illegible]

惟喬親王 [illegible]

[illegible]

久寛の

惟喬親王 [illegible] 威儀をもて有常

四[illegible]れ [illegible]

[illegible] 如色裏る [illegible]

[illegible]

[illegible]流の有常 [illegible]

[illegible] 貪 諂 [illegible]

[illegible]

[illegible]

山谷云樂者無樂自不求耻者無耻自

多愁也賢人可思義也

君子居安如危小人居危如安

世務と云

道八常と云

有常の書は

有常の兼平と

[illegible]と術て　人々[illegible]我[illegible]軍[illegible]年[illegible]
[illegible]言れ衰の作[illegible]
愚男[illegible]十[illegible]軍[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
業平[illegible]
[illegible]　軍[illegible]
[illegible]
[illegible]
心[illegible]

[illegible]
[illegible]
有常[illegible]
業平[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
宜[illegible]
[illegible]
[illegible]

三體詩

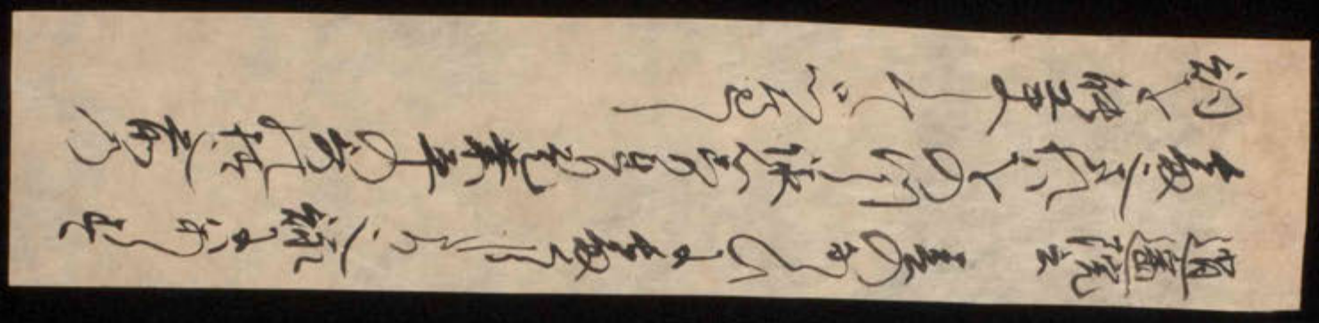
商衣方進翠雲裘（シヤウエ　ニヤウ　シヤウ　スイウンキウ）

[illegible]

[illegible]

[illegible]

面白くもすまされぬ世なれば
世を思ひ入たる業平
[illegible]
[illegible]
[illegible]



[illegible]
[illegible]
[illegible]

紅葉ふかき人の玉ずさみ
白きハてをこの社とこそ
業平女の文にも
古人
菊をうえ人の門前
はくハ重陽の陶淵明
紅とも見ぬものをたちとも
聚りて折りの人の
色をハ不知
十八
むし
男宮
深殿
白衣佳人
ナト云事アリ
内外ノ業平未忠伝家
しくやうて業平
十九
わ女
ハ
ハ
ハ

道ゆきやかて人とのこえ東平に聞
へたるとて京に歌よみ
りける　若葉の色もこゝ
元にかはらぬ　山桜
元にかはらぬ　山桜
三月なれど紅葉つまぬ
紅葉ちる　女のこと
遊事　京きこゆ
山田にて　山田
まゐりて　道すが
ら　行かんとて　二所に
思ふ

ゆのまゝ　ちかく
言ふ　ちかく
元に　男
女に　紅
女に　男
女に　紅
むし　女
かに　
町に　
不家
いふ
男に

ホ

言ふ　人
元に　男
女に　紅
女に　男
女に　紅
むし　女
かに　
町に　
不家
いふ
男に

御
ゆ
男

りくんろくれい　こころ　ゆるすもの
れん女の文かゝ　ぬ　ゆ　ゆ
言ふんとくるき　ケ
ゆゑ　ゆゑ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
放鳥寺ちさ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
かれよ出くこと　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
美の初花よりん　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
といふ名ふ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
思ひ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
はかり　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

上方に出ぬ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
世なり　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　我　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

詩　君が芝の桂春濃に秋更敷少人稚花心朝開
　　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
　　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
　　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

　　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
　　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
　　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

禮為仁人ハ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
　　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
　　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

　　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
　　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
　　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

みるこゝろにやわらむ我はこゝろ
はてゝ云こゝ玉勝の女の
人のさまもやうにかはれ
面影てらんかゝるけはひ
とゝ云ふこと

花と紅のいろにてつく
我が名は思ふ
聞くらん人やうたを入こゝろ
と云ふ同じ

女房はかくてやゝ

彼女は怪物

上はなほ新物語の事なり出てたゞ怪異なる伝
てこゝに男はかゝる言と遠ふとも怪異なる
万言万答亦不如一黙百戦百勝亦不如一悲
今こゝにて　は女は宣心なきものとて
怪物は分れ云ふ
中将の人に涙を思ひ
と云ふ云ふ
云ふ
云ふ

四てと云んと云ふなり
云ふまとんの世せとの世ふなれと云れ
ぎまとんの人よ面せとの世ふなれと云れ
ん清行へと
又くわしくしらきよ
もとろしと四
くろひろ家出とうせれんとなり
ん入ごふけ也て濃しうよちなり角
して結しさるよ有らり場れと云
なりて定よ　世女中ねの所とさせうなく
世女中ねの所とさせうなく
世女中ねの所とさせうなく
文よ言んなる我身なる様と書ける
文よりとんていなり
業平ねられ行れ行れ行れ行れ
こたしたれて　世中言よちあるとしう行れ
流ありとう云ふ中ねるんこ
世間をうり流きと今ふうなるなと頼れて
言ふるとうり人なり世よ如ふる也
をの代よ成よれて
我ふよれてうり行ふ今

昔[illegible]

[illegible]ばかりなれば何とやらんて絶ち侍

[illegible]人と云ふ

東平[illegible]のことを云ふ人と問ひ侍

[illegible]

何よりも昔のことを[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

石井とゝのゝしりはゝねのゝ井てこゝに主家と成て

主家に

[illegible]井筒ゝ[illegible]

まつたを

ま[illegible]けとゝいはゝ[illegible]

[illegible]年[illegible]

[illegible]

おの[illegible]

[illegible]

石清流ハ歌枕ゝ[illegible]

流れ[illegible]成[illegible]

[illegible]

男女[illegible]

[illegible]

物[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

思ひ[illegible]ひ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人々恋の心を我に引とりて
六十とて言葉也ちはれは本来我中に
れ侍ようとて云侍りける也 石今
侍ちはれは本来我中にあらるれ恋のんは
女いとかくてたりまよ
とて侍ひとりぐとて
おしのちて
小指の血塗中に
あひ思はれ
我思とて人に
とは涙よ恋ちよはれ
よ故よりと云と思れ
それ思れ
今は何と心
うこにて小故よりと
昔男有まりあいとは
をて恋ちて女業
ちもまて
れ侍よ

恋と思ちて
侍ん
思
業よ
笑とちて
女侍とれ侍ちる
恨ちんあはん
侍ちこと
侍ちまて
人に

わすれぬ事をいのり許へ参りおもかるの
ゆかりの社の神の御前にて
きりの中にて行あわれ
きこえぬ
ゆかしけれ古今にはそれ小町とあり
今のよに我身をうらめ
うらめしきとは世中ねたむ義こえわ中将
恨るわれもさきに思ひ我人えわ
あ思ひ我ゆとしのと思ひ分と思たはさ対
そ我ゆとの男ゆ我ゆ

五

兵衛小町の所へ行
ゆかりの事をひ
逢ひ申ん方
わも兵甲殿
二条后
有世業まうり分の女とえて
えて後ハ我ゆ
ゆ
ゆ

わひそりけるに人
後冷泉院の御時に東平中納言業平朝臣の
母の宮の御賀の日の屏風に
ふるさとは
我思ひ出でぬ人なりけり
よ後の世にやはたまた対の君の
ものまゐりとやらんとて
松とはいつれ
中将二条后の密通
の事深草院の御時
の事
ものはかなき
ものまゐりとやらんとて
と言ひ対の君
やとの宮仕へ
わさとて
女雑
ホ六
昔男女ありけり
次とはいて盟
はわれなくなりぬ
くとあり

我ひとり物思ふ人の
とゝはのわたりに侍りけるあり我計
ぬるゝを思ふ水よ新の秋ぬるゝと
人ぬるらん
とゝはりて
陸奥にまかりけるに白川の関にて
ゆかりとゝまるとゝまれる花もなるゝ
ゆかりとゝまるとゝまれる花もなるゝ
ゆかりとゝまるとゝまれる花もなるゝ

二条后に参りたまへる人々の頭かうぶり一人師
紀淑望后宮に賀とて
しうとめ可用
つかはされ　業平朝臣
や業平に忠仁公深くあはれがりたまふ
花のあれ
以一日のうちに
とゝ良辰美景明なるに
西の御賀の時に出家人
の后の宮とも
ものいはせたまふ

九九

昔男ありけり　むかし
むすめ　女一
逢坂の関に　関
昔文の関　禁中
仮名序　業平
なよたけの　竹
やまとだましひ　古注

三十

ヨ

いとゝ
ものいはせたまふ
餘情限
切なる
袖
可吟味
業平
紐
東宮

西之関えうり長崎まで社よ立て指りと思て
業平しそていひけるく眠るかり
ひ〻人　不祥こ
業平此今感りれ必暮らんさとこけこハ
のうこんこ女の泊く恨るかとかくいひかるとも也と
法力とハ還着於本人の心也取分元亨とハ此女
中ねのたきりと根て也や亨業平かん和ていい
ひきりしへんこ車法の変也
誓約也還着於本人のこんて乱れを咒し
こりてうれこうはひこと也

於こしなもりうり
かくひけとと傍よ妬人とを也
有物ひけの女　年ひ第りとと絶て也
ひ〻人ひとりとまた　石人こ
ひ〻色賤ひとまを、やきとき感分也
此分ひとりて也下すれとまれて芋とう
ひ〻於りうり年こ唯とり〻衣と心ひを
有こ内年こ有此分ひ
とりれとハ命
於ハも思ことやこ也

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]時也

[illegible]親[illegible]の[illegible]也 業平

[illegible]長[illegible]也 [illegible]

[illegible]也 打注てと云也

[illegible]也

源至流[illegible]也

[illegible]

[illegible]

[illegible]

以衆生と云へるは法と云へる共法と如来と
法身と云へるは
龍潭吹滅話　紙燈吹滅話示徳山

いとく云　いとく云法は
拙きしるしなり中ねは法身とさけとなつけ
あれはいとく云也以下に衆は法界也大成
し法はしるしなり法界は大成
よ法つれて人身と定る者也法身と云ふ色法
衆は大なれしるしなり色法
是則は真減之義也

真是真非在何處人間看放地域南
あれて有者か　直は也くよとなるふと云也以五
ハなと結用也やしれ
いとく法は順のなり
猶以也以海吹滅
ふへ　但拙本
みの法はなり
以前のよとなるあれて
ハなとなるなり
真滅とあるを行
不生不滅

定至樊順　文安五年大経下源
朝臣至為右兵衛佐
ハ内乾坤

此家毎年行うかと新しき火を出して
法燈とさけて立しかの

龍潭吹滅話　紙燈吹滅話示徳山

いと云　いと云法を持つ人は勢法
花さしあるとなり中ねば法をとさけといつるなり
あれいくこも此下に表に消といつる法界は実性
し法はもつとも人は地水風空
よりて人所と定る者也此法をもつて色法
衆は大なれば死ぬ色ひるもつとも法
是則非真滅之義也

在伊勢国　虚人間看放地獄南
百丈　人間看放地獄南
人間看放地獄南
百丈　人間看放地獄南
人間看放地獄南
百丈　人間看放地獄南

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女と親しまいつまでいはれしかの女は

[illegible]

二度一度まで[illegible]

[illegible]

[illegible]

女の親也

[illegible]

[illegible]

[illegible]

論語曰 得意者 莫如齢 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あしたの葉平の女房とうく
衣袍のうち
いやしきわさ　位上の心なり
そうあるさ　あるべきことにはあらずしかず
ひとりの　縁なくして也　上位の袍なり
しかるべき

色葉は遥なる也　女房　角二所　之義
紫色なることわりなり　女に寵れて　の時と色目人位
よ上位なりと云表と思うべし　黒むらさき
有事なり　嘆くべき也　なりなり也

伊勢物語本文

あるひと人の形見と思しきものを取てなげ
武蔵野にいでゝ
紫草のゆかりしたにの草なれば　かくれる
双なき也　なれば同じと思ひ也
むかし男ありけり　なるべきなり
あるべきわざとも　将門
なりてわるかりける　紙
いとゝかくえんのまりはなり　わかり
あるべきなり　相国

[illegible]

出くるを待て行つゝ[illegible]

雖かくしも也書出給りへと通さんと願ふ

第二

昔や[illegible]ト　賀陽(カヤノ)歌と桓武帝七世の孫治比氏

三品治部卿　貞観十年十月八日薨年六十八　[illegible]

[illegible]萬竹會の作[illegible]見申の由業平[illegible]

人々[illegible]　賀陽の[illegible]の女と東平[illegible]

事なり我のうたと業平我のうたと異なり

又人々[illegible]つけて　賀陽[illegible]申と東平の女付也

[illegible]　[illegible]

[illegible]

人々異人の我[illegible]　他人毎義を明る

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あるとはあるまに　花月の奇絶やうにはなることを
花の時とまれわれわれ也　八幡法師也
常世の雪　雪の遠国なる事也　雑義なる人
しんとうめてとまりやけ　寺とやけ　で東平よりすす
時の人なり　よりすす　法
はよりもて　一法師　白とこはよりはてて
吟味して　愚見　物流
有男なり　人のむしめ　女ども　寺にもて
しいたとせ　古法　良相　女ども　不用　雑
云ふ人　武り人　なる人

物やたん　やたん　人流　物也
はもしも　年なり　年なれて
云よりて　兼平の物　兼平の物　物也
義経と不遇　義経　我が死なり　諫法也
八月八日なり　八幡　知ぬ　一日作也
時節の義　思物　者　やう　歌
涼風打吹　時節　思
はるかなる　玉階　玉　源　如水
物　花　物　所　来　所　物
とき　とき　とき

はかり心たに餘情多し感情深き詠にてあるべき
はゝ青いはなてさかりくらかしに風いと勇ましく対岸の深
しさまる仲秋の月はいとはなれわたる雲のうゝ乱れと
てもなを波の上なる行方なき花とまきゝ行くよ若なとも
ろ多くいとし吟味して何の歌と思ふ事なるや
気なるに　えい業平朝臣歌に何ときなる世の常なる二条
よ物の中に何かいとその必ず花と月かえ
えい拾遺さしてはり前のゝ歌の心歌なるわれのを
異合の方向に
業平
有男とうらうさたわりなるとうりきい玉葉

うさはらうて
人今ハ
月日をよけ為て　切テ
まれわさわて
発ふ
ふ

詠歌
ふうい紀也

ふ拾遺
今ハ
月日
まれ
発ふ

ふ拾遺
ふ
ふ
ふ

第六

早瀬玄石新しき道
あるれども也業平と
首男行くらんよいて思ひ女
帯は板とくまるべ
知りぬさりひくてあるべよ
ちるべ物なれよりあるべ業平新れども也
天のさ帯昂の刻ひあるべくいと取り取らて行
とすりないとりあるべ人面て人あるべ
絵れなま
きとて云色ひてしに刻ひあるべ
一すよ家わるべとい心や
こはわさとくこしてそれ
上りこまるわれ
帯は絵よ多ひ也流てい

第七

首男有りしまれしに
いくらわるべ人絵
きとも云ひ面
いま我しるし
人人人物人絵俺ひ時人まるべ
わやと我人釈納
しる男いりるの
業平我妹の哭用と紙
絵の男人あるひ
文人を
器なき八千紙人と
紅角女一宮句
アケ一キ
ひあきた以絵ひるべ用
業平の情愛の千也

[illegible]
[illegible]
[illegible]

說苑作荀息云 良注晉平公荀息云 有小異私注
云云の事百卯とあるの事とあり又
丸ゝ私云云の事とあり但は云云と云云
不用只有云云と云云出あるも云云
事あり其人といふ物云云と云也
陳鴻報恩記云 德至德 父母德 恩至恩 師近恩
縱雖百畳宮上 於鶴百數 難其德
報恩云 是は云云の事と云云は云云の
恩を報て人公と云云
吹云云

云云云云云云
云云云云云云
云云云云云云

植しうゑをきし初也ハハ人のうゑ也人かゝ植置たら
く梅の香に付やうさんかれとそのはつしに限ハ一時
しとえんや我しらんもと貴歌とうん人れ梅橘
なりとそ花と我さ　かはのうかをもんて一重也
百花とこのりうと人のうらうちりさ
やうのかをしく法さる梅也大梅のちよるさりり
とあり　梅遠しあり　梅付　ゆ方宮人うらもうり
て梅花
やうり　菖蒲と粽とする人ゆうと菊花
れ初しかくらゆ人ゆやハ泥人ゆ　梅ゆれ蕾

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の[illegible]の家をきわめて万物義[illegible]の節
物[illegible]の行[illegible]
[illegible]域[illegible]
[illegible]

ケ六
[illegible]人[illegible]物[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

田[illegible]して　行[illegible]秋[illegible]也　東平[illegible]
戯[illegible]以[illegible]田[illegible]合[illegible]して[illegible]
すき物のしるしや　業平[illegible]の面也
[illegible]業平の[illegible]
荒[illegible]
[illegible]也業平の匂也業平濃[illegible]
やしてうのかのあり[illegible]
東平[illegible]
薄[illegible]て　女と見て[illegible]
[illegible]也　拾遺集

[illegible]
[illegible]集也[illegible]
[illegible]
荒[illegible]
[illegible]
[illegible]

古注流布流不用之在大和物語 祇園之女

漏法華之秋拾涅槃之落穂

分別功德品 天台大師尺文句九云

譬如田家春生夏長耕種秋收冬藏一時雀刃呼權及 自法華已後有得道者如裙拾耳落穂ヲヒロフ也

妙樂大師尺 疏記九云

如秋收冬藏更無所作故知大雀須法華ヲ信メ成佛セルハ譬イヒヲ秋カリテ冬倉ニウツムカ如ク在法華涅槃ヲ信メ得道セルハ春ニ落穂ヲヒロフカ如クニテアルヒ也

天台妙樂御尺 人心也

五十八

貴男京とへく田舎人東山より洛中を見る也

東平記 住俗

東平記の中に住俗の事

住俗は今しこうれ山里より

住俗は素より金銭に餘つる事なれば日々

住俗は素より高貴なる者なれば生涯を光陰にて行ふ

住俗物語の中に奇日と二さと俗なのようなる

物思の病気と成絶入

かくてやいくやうくやうくと

以冷水灑面と人間絶入

きていさうつるよ

天竺諸侍住嘆泣心憂悩

以水灑魅参手號哭

[illegible]

愛宕山に登上よ高くく人間高しと

ゆうまきさてや

共色灑そそる水とよりて明絶入身の

いきいきさいたへるの高よ[illegible]

京はとたさたるいと高き也

五十九

心よ移りたるとと一つ思ふ

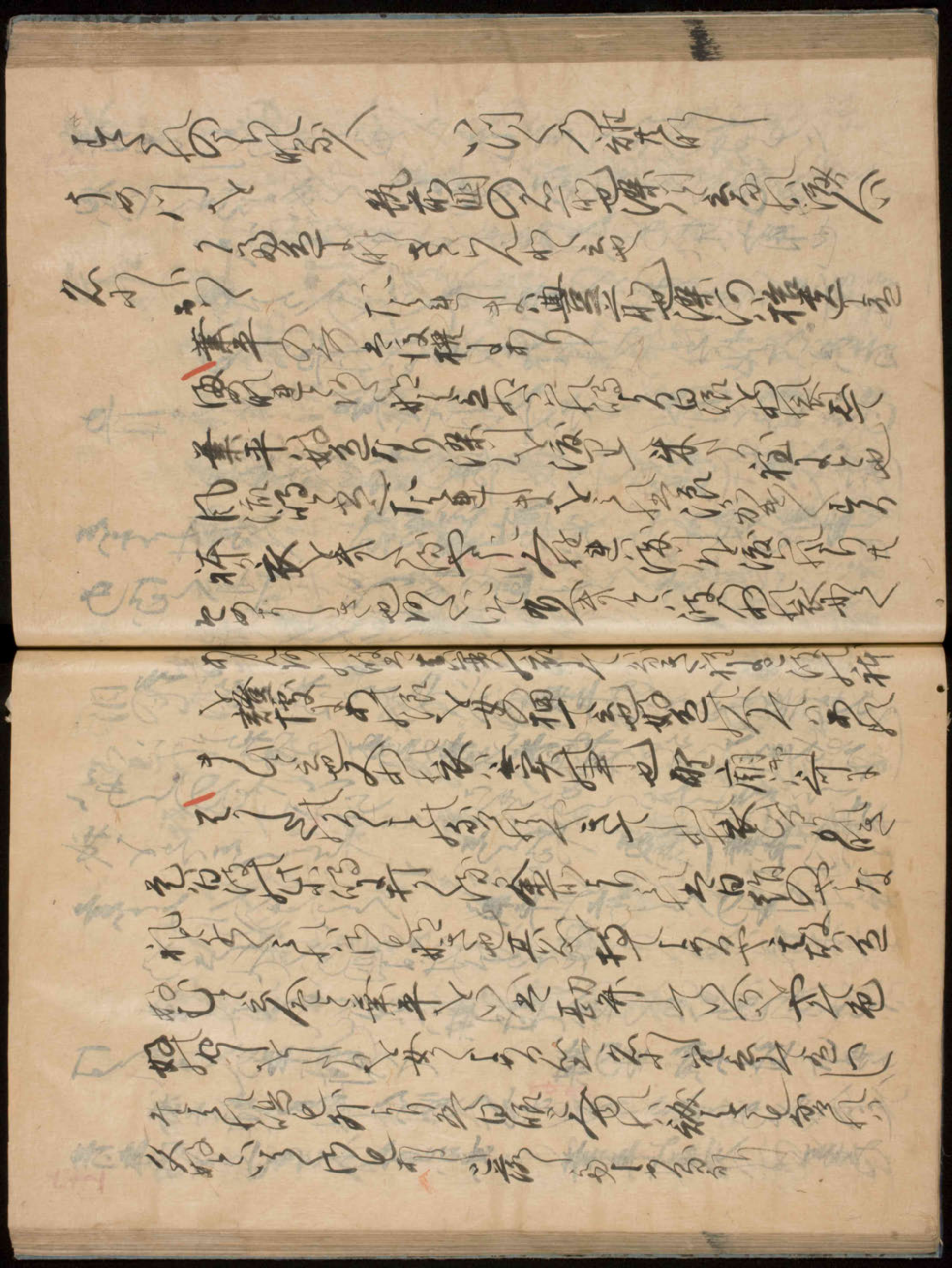
貴宮に仕かく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家こそ[illegible]
[illegible]
[illegible]



六十一

昔奈良の帝さま宮仕の女　業平朝臣の妻

女房　ある人の妻　妹の手紙を付て

ひとくやみ　さり給へる女人

妹の手紙を付て

きたりしかば　妹の手紙を付て

つかさ　四位の

業平朝臣の妻

ちはや　返歌　業平朝臣

我とそ思ふ　人の妻

ちはやふる　神の

いかなる　ちはやふる

神の

ちはやふる　神の

我とそ思ふ

ちはやふる　神の

ちはやふる　神の

我とそ思ふ

ちはやふる　神の

ちはやふる　神の

我とそ思ふ

ちはやふる　

[illegible]
女房たちは我とゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

世中はいとうとて　さとり業平は　[illegible]
[illegible]男女　天皇の女　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]

二条后御墨出

平の行平の朝臣の墨出

女房たちの作れる歌

女房申侍りける

女房の文を見侍りて

女房申侍りける

一條御息所

巫

具

[illegible]

[illegible]

三代實録云清和太皇鷹犬之遊漁猟之娯未嘗留意風姿甚端嚴如神性

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

業平流罪の事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中ハ桜花ヲ五分ニ分ケ
人ヨ紙ノ上ニ其ノ花ノ
景色ヲ詠ミ歌ヲ
流シ合ワサノ歌ヲ思
ヒ寄ラレシ所ヲ吟シテ
ヒラカレシ所ヲ見テ

六十六

有明遥

月ハ出ル人ハ
いこまやま

有明ノ月ハ出ル山ノ
ヨリ出ル人ハ
月ハ出ル山ノ
ヨリ出ル人ハ

二月清水

侍弱の絶頂ヲ人ヲ思ヒ
しやくやくの花ノ
ヒラカレシ所ヲ
東坡 紅雲妬佳月氷封水面閑無浪
雪點林頭見有花

大神十四歳

業平也

明日

心ハ心ノ積ノ君ヲ思ヒ
空ハ花ノ林ヲ妬テ空ヲ隠ス
くらまやまの欠隠ス也
花ハ月ヲ云ハ月也
遥遥

侍弱の絶頂ヲ人ヲ思ヒ
しやくやくの花ノ
ヒラカレシ所ヲ
東坡 紅雲妬佳月氷封水面閑無浪
雪點林頭見有花

大神十四歳

業平也

明日

心ハ心ノ積ノ君ヲ思ヒ
空ハ花ノ林ヲ妬テ空ヲ隠ス
くらまやまの欠隠ス也
花ハ月ヲ云ハ月也
遥遥

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]流あり愚民扶持[illegible]百姓の耕作を
怠[illegible]て唐[illegible]
[illegible]国[illegible]
巡[illegible]諸侯[illegible]大[illegible]
[illegible]
[illegible]

月は[illegible]物[illegible]例多分二月三月也[illegible]
多くは[illegible]月[illegible]の[illegible]る[illegible]月[illegible]
ら不用之[illegible]も[illegible]月[illegible]
[illegible]

キミニアイメルコトナレドエノヤウナルコロニカクイフリ

[illegible]高[illegible]岑[illegible]る師
[illegible]尚[illegible]し[illegible]年[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 神代の八百萬神は不輸陰陽道の仔
特諸尊仔細尊[illegible]の諸[illegible]
なられしくしより

七十一 男女の生成の女神[illegible]
天[illegible]

[illegible]流の行[illegible]
[illegible]

七十二 [illegible]
[illegible]
有家卿

[illegible]

[illegible]
月[illegible]

七十三 男女[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

昔伊勢の国に井[illegible]

[illegible]

念汝将一身西来曾幾年[illegible]山谷老一[illegible]

留王郎詩曰　我随簡書来顧[illegible]将一身

[illegible]

社会美しかり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今ハ[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]

藤氏のさきい行啓三代實録仁寿元年小姫
一ハ准后宮也行啓之時必録之鴨之江次第十
四后宮出車事
「東門院大原野行啓出車サ内ハ自忠家公給
母雅為御乳母ハ乗才ハ車ニ乗皆入道教令
舞ハ大原野行啓記五條后順子勸之院衆為
副車二条后高子姪乗車後在中将書和哥与
二條后大原小塩之山今日已賞之神代之事茂思
出良月　人知先是若有密事　欲或在中将
為嫁伴后出家相撰其後為生殺到法興國向
小野宋小野小田原仁和寺ハ終夜有芭蕉風之
吹仁付大元何邪月ハ後朝髑髏目中有蕨徹在
五中将源注ハ小野止波不成薄生計里所敏蕨
中将ハ斎宮密通依令生師尚真人高家ニ今
不参伊勢故中宮大原野詣時資仲卿進五條
后行啓時行別面人知之
ちの湯ハ
ちの湯ハ　ちの中ハ　ちの湯ハ不可使　ハ拾遺
記ハ　ハ　ハ　右ハ　ハ　若之為ハ　ハ拾遺
大原や　社世ハ　春日社ハ　ハ　ハ
合殿ハ大原社ハ　ハ　ハ

春日社を社司なる八百業平の后へ[illegible]
[illegible]
[illegible]
社代の[illegible]天照大神[illegible]天照屋根命と陽陽二神[illegible]
未君臣合殿の社[illegible]
今[illegible]春宮の母[illegible]
[illegible]
社代[illegible]
[illegible]

七十六

昔田し[illegible]

在所未定[illegible]

文徳天皇[illegible]御の御陵迹位

文徳天皇 [illegible]天安元年十月崩去

[illegible]

安祥寺

[illegible]

住持[illegible]年紀[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右大将

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十二月[illegible]天安[illegible]誤歟常行任

大将殿ハ不見也

在る以 業平ハ伊勢ノ介ニ任也

[illegible]

人の[illegible]流れ月日ハ[illegible]

山の人[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃文武もまのかゝ成ぬ人
あるべきもの思はれさや
元祐ほとゝぎすの名はく
松尾芭蕉翁付まんとかゝ
所の人と思ひ言ふ
なれかゝとも西行
ひるけ是れ我んと宗
てこせ寺由やかりは
つくとも無実にしい
分よりてしまらるとは不似合やあるし
石は
吉野で前後に拾ふ
神を祭わせ
苔氏の代ふ
ひまれ拾

[illegible]

七十九

昔[illegible]

雑[illegible]

人々と[illegible]

雑[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

賀茂川

[illegible]

八十

家[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六條ノ堀竈ト称シ侍ル故ノ堀竈ト
[illegible]
[illegible]

恵宗烟雨歸鴈　坐我湘洞庭　山谷

嘆扁舟歸欲去故人謂是用青ト

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

河原院ノ荒廃ニ[illegible]　恵慶法師

八月十五夜月ヲ[illegible]人ニ[illegible]

玉樓今敬[illegible]

[illegible]

今[illegible]

紅葉[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

時代をへて今はかりそめに
愚見初よりそのとしはまもなく東平は早下
道　宗根　伊勢詞　浅宮いさゝかりてかけつゝし
出王舎　二条院　さてはのこゝろ　ゆ　鶯　不出
りて　行人　しるし　世
なさきの家　清の流　清の橋　日本
世界　よ　　　

右るひかりの見さまれ　業平は扨もさてこそ
かりそめし　　もとはつまと名おの通やとは名の縁や
待て河原に来れば　せゝの方とゝむとこそ
ゆえ　　ゆゑ　　ゆゑ　　早辛ひ　　行れわや
又東平の寄と海成感し　結ぶ市常と言れ出立
人知れぬ仇なりけり　　ちとは泳ぐも
惟喬の親王に　　ひ　　ひ　　ひ　　ひ
宋朝王荊公　　賞花鉤奠宴の時詩を作る
約と合て海さうして　　安人名とひ市
れし如案て下の設とうく行らや

王荊東坡争詩者也

一とせよ　一年は一度来るなれば　ひとせ
十一日月也　　夫深く思ひ入る月也
わかれよ　　くらられと式也
人を明山の月と情なしの語はせていく
絶めて　　互ちさや義て的の異を寄する
ちはけて　　業の紅葉少しきる
ちなて晨とそよ　　仕様
八十二
昔人れせ　　り来て交海六市の美
ちのしまのそんりとれ　　ちて
よと業平れ不寄小や

枕そ

[illegible]

世そ[illegible]

[illegible]

[illegible]

門前零落鞍馬稀
はりまさらひと友とや
惟喬文徳第一皇子
惟喬文徳帝に忠仕し国政に参れる
御孫法印文徳帝に御信仕付給
わすれしも　やはり君の為に寂しきまま
西行法師　こんこ四条の宮
君をもとめ　君を訪ひ給ふ
夢ぞとも何しらぬ
世とそしらぬ
山の業平　山の小古
かの伯母の反
山河は沈吟して丁字
なくく式部
はの心切なる
早下向也
伊豆国教
業平京の法印の御
るし京の文
ひとりるに
山脇小業平
こんの
もわれ
俤
俤
俤

死の人絶えなり　世中は　上馬明神に代々祈りの長年のとい我
ものとしいと寺町の人々のことにうらこそされ世
間よりわかれ　と云やかく言ひ我ん
詩　詩　詩　

行平の兵庫の守の時分
いさこ[illegible]のくに　いさこ[illegible]のこと云あるとも
いさこ[illegible]の用
[illegible]流の[illegible]
[illegible]万ぢの海[illegible]
[illegible]流の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

情と世宮さ、業平朝臣かよひ給ふとこゝろ山の
法ん師さ、ちうこ

伊勢の御

わすれつゝ　伊勢の御

とゝ、り　枇杷殿

第八　業平の友達

ちさとてゝ　業平の友達

ちうこ

月をみるとて

月をみるとて

東宮のもと

ちうこ

月をみるとて

ちうこ

月をみるとて

ちうこ

月をみるとて

一所と云ふの起て煩ひ出来しなり如何と思ひて
て月ともなりぬれども
ふれども古今にも絶えず吟せ人之教戒の為に
怕老[ハクラウ]放逸[ホウイツ]　愁病[シウビヤウ]倍増[バイテムヘ]　不怕[ヲ]示不愁[ス]
是怕示愁　是治老病薬　文集
昔[ムカシ]　業平[ナリヒラ]より後[ノチ]の世[ヨ]の人[ヒト]
人[ヒト]の和[ワ]して　高[タカ]く貴[キ]人[ヒト]と成[ナ]りて世[ヨ]に崇[アガ]め
てといふん程[ホド]の事[コト]なりとや
人[ヒト]の上[カミ]と成[ナ]りて世[ヨ]に崇[アガ]め

と推さ称[ホメ]しかの人[ヒト]の流[ナガレ]す
昔[ムカシ]　業平[ナリヒラ]の人[ヒト]
さうも　記[シル]して　和[ワ]して　書[カキ]
今[イマ]　愚[オロカ]なる人[ヒト]
人[ヒト]の道[ミチ]に逢[アフ]と云[イフ]
より前の和して人を弱
ゆいふんと也
　男[オトコ]
程[ホド]なく云[イフ]と意[イ]
ふ[フ]と云[イフ]
ふ[フ]と云[イフ]

午

昔月日の行くすゑを歌に男

なりて三月つごもりのよるや

出給へるこゝろを云ふんとて時鳥を出して

折節三月と出したいとゝ切なるべし

行くめるし　三月盡と行くしこゝ此の月盡なれば

三月盡よりおれば早一言盡はよと云ふ所

あらしてや　春と三月盡と久しきとゝ云ふ

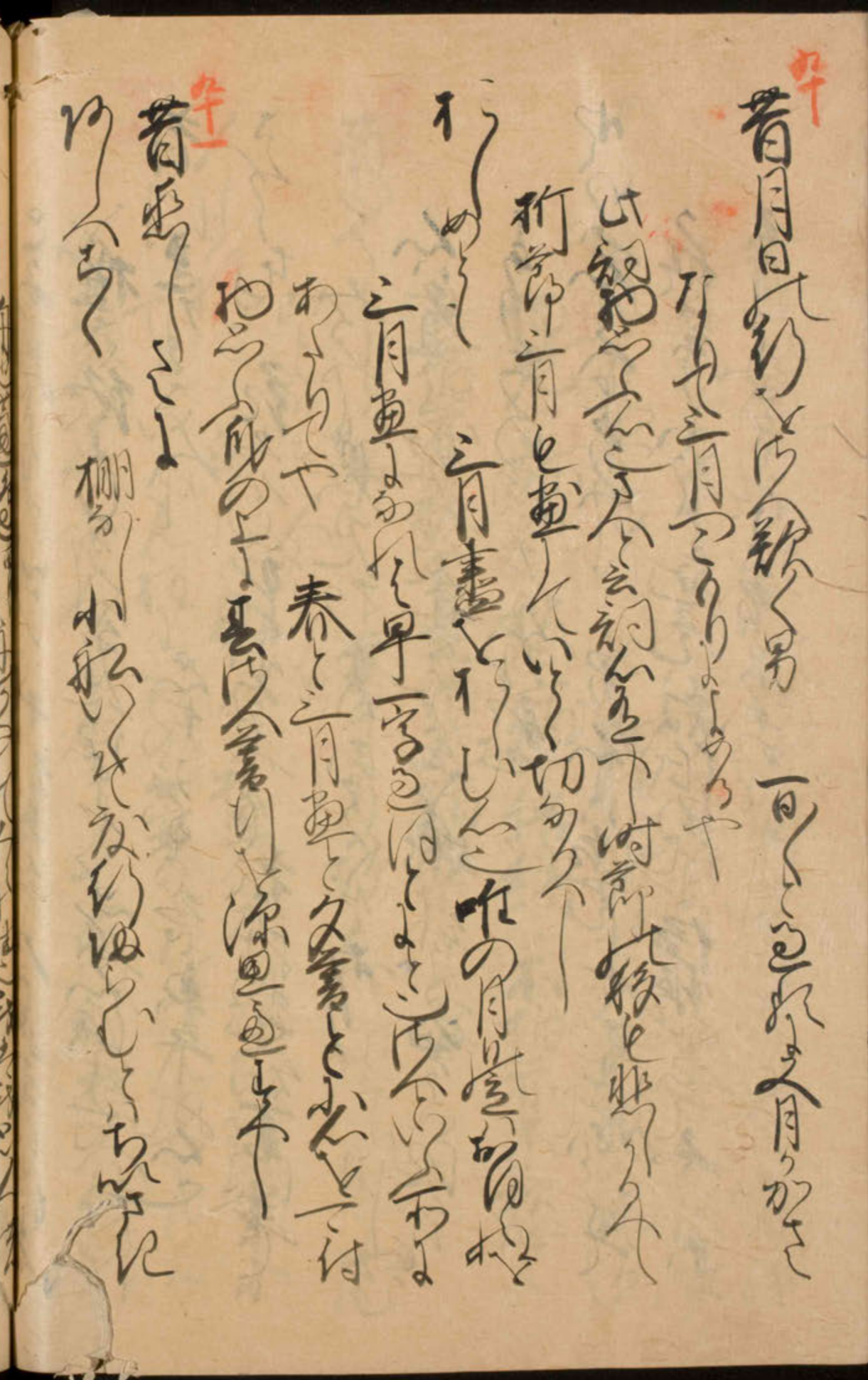
ねたる所の上に長月盡と言ひ深盡と云ふ

午一

昔男ありけり

棚なる小松をなん行くなりしかば

ゆくへもしらず



午二

昔男ありけり

東の方へ行くなりしかば

あけがたの人

なしとなん　小けがたくしれ

元をたのきやに云ふ程に起伏とや

をとめの家にはやとて

行くに雨降りぬべきけはひ也

やどりぬるに

夜更けぬとて

雨降りしかば

女に行くに

やどりぬるに

夜更けぬとて

雨降りしかば

女に行くに

[illegible]

[illegible]

[illegible]

男ハ元ニ戻れ申ス事ハ不叶男ハ戻ル
ハ地者ハ我ハ地ハ我ハ其男ハ我ハ
永日ハ申ス事ハ
此の私　今の男ハ合て申ス事ハ
ハ男ハ申ス事ハ
九諸有相皆是虚妄
男子ハ合て申ス事ハ
其ハ下の男ハ何ハ申ス事ハ
いかなる故ハ男ハ何ハ申ス事ハ
其ハ男ハ申ス事ハ

虎稚草　巻一

有二条后ハ男　東平忠仁ハ家礼
深厳后ハ二條后ハ
地ハ　適ハ　地ハ
有ハ申ス事ハ
有ハ申ス事ハ
七ハ者ハ兵衛ハ必障ハ思て
有男ハ申ス事ハ

こうくわの花を用にんじ盃をとり

人非木石各有情不如

いとをかしわれ

不遇傾城恨

肌ふるひしらかさ

有ときは氣温氣の河うめて

あしき者に対面をえるわんこの中の対ようを

今しなんの名残

かつてきての迎ひとや

秋風吹ちら

物といつまたれしやうかとや

その人へ中よりなるをもり

東平はめ拾ん云ふ

夢とも色ちとは云也

如何せんと

思ひ

初紅葉初秋の行節名ゝ如ゝ

ちらわくらはと

秋をて

ちるはと惜ん

沢に落ちと等り木の葉の

地ふれと流ひ

そはと縁流や

之以語ちりう

こうれとも

東平つやしんて東平

我ゝ秋を守ぞん

東平はの拾ん云ふ

東平は流

東平ゝ告あり有用

こうれとも

東平

東平はの拾ん云ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible] 蠱動合霊也 春日社の神[illegible]
[illegible] 双[illegible]の地[illegible]
業平の[illegible]
今のふるさと 是業平の[illegible]根の切[illegible]
思ひ[illegible]女の性[illegible]
[illegible]寺[illegible]
[illegible]

[illegible]
有[illegible]の[illegible]
右[illegible]
天観十七年

[illegible]
きくわう寺 仁明[illegible]
照宣亭之寺
依大織冠大忠天智天皇[illegible]
藤[illegible]
為[illegible]
不連未来之[illegible]
九條以来代藤氏嫡相[illegible]
家門者号本[illegible]
三条坊門則[illegible]

中時なりければ行[illegible]　業平元慶元年中将の時
未可但中将[illegible]　諸業平撰官[illegible]
桜花　[illegible]
[illegible]
[illegible]

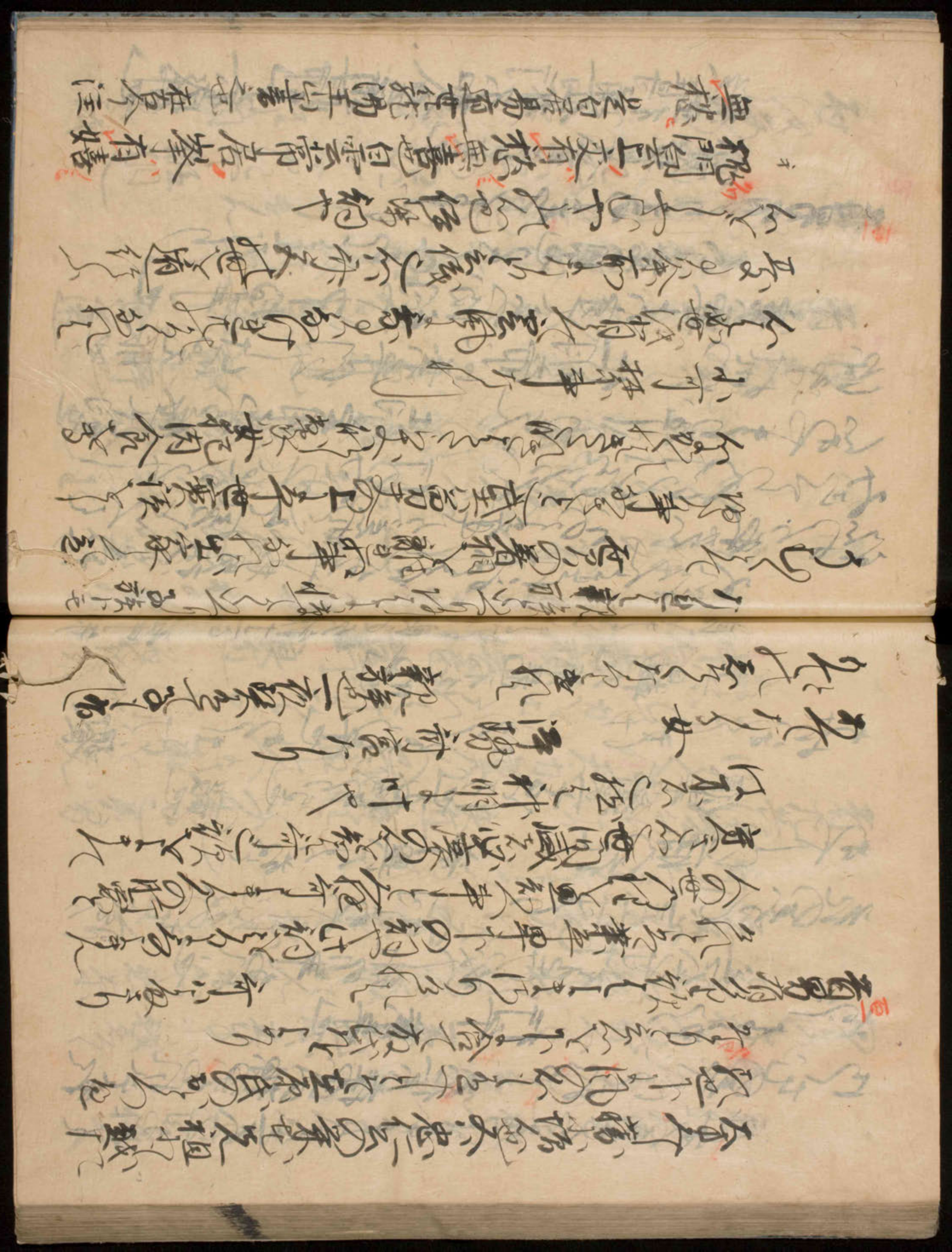
一文師読　是ハ世間ノ事ニ心ヲ用ヒ見聞レ
人世ノ事ヲ知ラシメンカタメニ
ヤ　ト見ルトモ世ノ人ノ
ヤウニ　ト見ルトモ
ナニ　ノ事ヨ　ト
見スルトモ　ト
小見初ノ人ニ云ヒ
云ノヤウニ
為ニ
云ヒ初ル

三句ハ只ノ人ノ
ヤウニ
ハ
ヤウニ
ヤウニ
ヤウニ

[illegible]

[illegible]

[illegible]



維蜂得通仙術不知入白道歸化事不成佛也

〈覺わ也〉云ことを云也

百一

貴男有りまのよ志ちりこ

志ゝよ寅用也ゝるゝとゝなり

寅要と八守て云ひ詞や中ね事也

仁明帝

源家城つ　　業平朝臣はる元服也

んあやまりなしりきん

上詞寅用と云ゝ依て此詞

みさらの月しるしるんと

何のみてもるゝて

紅わゝ東ん　　なのゝ意

ゝ紅んとゝれ詞

なゝさとわ也れい

いゝるゝて消也　　神ゝ東

と八海の小意ゝ

わゝかのゝ詞ゝ

いゝゝ寅ゝ寅ゝ

さのゝゝ寅ゝ

ゝ紅ゝ寅ゝ

ゝ紅ゝ寅ゝ

ゝ紅

せいよりかしこ　海云のうえよりくだり
月をさしあげ　人会てのとうの字
えい　斎宮の御人　治　まつ　車に　東平方とふ　せり
乃ちてえり　業平の　計て　海のうえ
青男かて　云わすしらいや　とえれを女
白あえし　治し　清とて　玉　ゆくさ　今　ゆ　たて
　　海のうえ　玉　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
　　そ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
かのうと　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ
青男みこらのせうえ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

初夢の事 [illegible]

内記 [illegible]

天徳元 小内記十二天内記

[illegible]

[illegible]

[illegible]

えてのちの事はかり
　　人とはいはで女と我はよりあはせ
　　あまりの人をえてをらしやの男女也
　　　

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法ひはのことを云ふ時は五法とく
きるくものをこそ云くるなり
百男やむしとなる女　新しきは女の詞よりあらん
をとこ　やまとことばなり
をとこ　我国と云ふ詞
伊勢物語　今の世よりはるかに
ものしりなる古人のことばの
我のをとこ　我国と云やうに
をとこ　男　をとこ　作者
ものしりなる人　今世の世
ものしりなる人　今世の世
ものしりなる人　今世の世

必肩をとりて下紙をとりて
はなをさし鼻しをりて
なりは我下紙のけ
下紙人を思ふ時解
をとこ　をとこ
思ふ　思ふ
をとこ　をとこ
をとこ　をとこ
をとこ　をとこ
をとこ　をとこ
をとこ　をとこ
をとこ　をとこ
をとこ　をとこ
をとこ　をとこ
をとこ　をとこ
をとこ　をとこ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

清和 貞明 文德 三代 伝 将軍 絶 矣 然 再興
[illegible] 為 [illegible] 絶 [illegible]
行平の出家のものやうとなり人分咎てうくるる
[illegible] 今 [illegible] 出家
今の帝 [illegible]
[illegible] 文徳 [illegible] 思 [illegible]
[illegible] 門 平七家 [illegible] 依て 仁和二年 [illegible]
事 [illegible] 惟 [illegible] 祖の遺 [illegible]
[illegible] 用て [illegible] 教や 石清水
山 [illegible] 滋春 [illegible] 人 [illegible] 氣色 重
り 法 [illegible] 源の中に記

但 [illegible] 清和 [illegible] 宮 [illegible] 異説
業平流 [illegible] 時事 [illegible] 前 [illegible]
[illegible] 書 [illegible]
男女 [illegible]
おこさの [illegible] 夫婦 [illegible]
[illegible] 人 [illegible] 物 [illegible]
[illegible] 井 [illegible] 焼 [illegible] 所 [illegible]
義也 石今 [illegible] 滅 [illegible] 可也
石清水 大宗 [illegible] 本 [illegible] 事 [illegible]
と云 [illegible] 山 [illegible] 富 [illegible] 大納言 [illegible] 下 [illegible] 時 [illegible]
山 [illegible] 遣 [illegible] 来 [illegible] 山 [illegible] 清 [illegible] 今 [illegible]

清和 信明 文德 三代実録 此時絶矣 此時再興

行平の出家のものがたりとて人分なるべくもあらぬ
ことなりけるの嫌さよりも今いかばかりの出家
なりけるよりもなほ文也 河氏 氏を用ひけるは
河門門平七家よりはじめて依て仁和二年二月
事始氏をとけるしひ思惟 此人さやうに祖の遺なる
を拾ふて用ひ清の教や 石清水
此方を滋春のうへ八幡にて河氏を重
うり流るるものの多れば源の中に記

但宣家卿と申は清和院御子 源氏異流
業平流氏の時事 前の流ハなのり
此書かうの文百
男女すんうり 女婦なるべ
おさの内 人は記なるべ人分なりの物ひして
ひとの井て所と焼りとて焼きりとて元氏物語
愛也 古今 業平滅亡也
古清水 大原 ようの寿と云ありて中記
と云ありは方冨丸大納言国房より下向の時四女
此所まて送りて来て此方と清水と今来ると

當流に不可用の流　紙

百五十八　書写しくるよ　来りしくるに人の女のまなかて

浪間より　演ひけり　玲瓏ひさに万葉問愚見抄

涙の家なり　宣家卿庭上高しく

京なれたの海涙ひけり　ひけりくく　涙の白玉

はかの家の習ひなりは　はかの白玉　底なきを

涙ひけりとはさかの前　さかの前　底なく降りて

祈国門流涙底　若ひさ　かの事なりと　師流て

まさこの　只人のわぬ　流て　只人

只人くさとい　人さめ　庭上高の流　流

涙ひけ　居所の　はかの流　流

河なる　流海の　若ひさ　人くなる

何と成　成り　文を書　河なる　中なの

何なる　不若　若と　云つて　こんやとく　とて

人心　愚見抄　流　用ひ

稚流流　文なれ　紙筆　流

故園東望路漫漫　雙袖龍鐘涙不乾

百五十九　馬上相逢無紙筆　憑君傳語報平安

詩　稱説抄

文亀元安元行幸也　寛正四年

書門住所

不能云々只此物語就中上人云々源氏物語
かとしかぞ義と物語国語学者今
撰入られり　伝聞　作者不詳　業平　姫君　義
我人てと　人間　作者不詳　業平　姫君　兵衛　義
天皇　御　物　用　ようすて　ものいひ
なきやうに　現形也　なきやうに　源氏　物語
御　流　同　姫君　なりてありと云
むかしはと　為　在原　歌　帝　神　親
むかしはと云ハ云々　伝　なきやうに

ありきと云ハ云々　ようと云　花　物　久　世　物　物　物　て
とハ為在原のもの　は　方　伝　文　師　流
五十七　有男　人　と　と　と　せて　云　ふ　ふ　中ねの本ら女
ハ　人　云　業平　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
玉　ふ　玉　むかしはなの君也　玉　流　ふ　ふ　ふ
人の見ぬ　ものと　ふ　ふ　ふ　我　伝　姫
ふ　ふ　ふ　為の像のもの
五十八　有女　男　ふ　ふ　業平
ふ　ふ　ふ　ふ　

いつくしみを深くしてあるべきことしかるべし　家に
かくしてあるべきなり　自然の花の香りを愛らるるが
ごとくあれば他世界の人の集まりて来たること深くして
はなはだ結ばれたる人の数と仕合せ
他人を結ばれたるや他人を結ばれたる深くして
未嫁人事　東洋人と西洋人
有男女の別なくして世人とて
ものなり　はなはだ人間に交わるべきもの
我が強くして人を行なうとて
ものなり　東洋人は人間に交わるべきもの
ものなり　はなはだ人間に交わるべきもの
平らかなる人間に交わるべきもの

[illegible]

桐葉　泮景舎　梨葉　脈陽舎　梅葉　凝華舎
藤葉　飛香舎　雷鳴　襲芳舎

嘲の花と　花とはいとはいとはいと

農民物語

さんとやの行用者流れよりるるこの人行と報
とそうしゃうとやはりて此報とて
百男ちいさき主ふるものやまれる人々
ひとりの井てう玉水　その子ひとりなれせとて
下市此物語し物と変ちう中わり又井戸ノ
石天王の記付よ我此国はは水とみ和とみ
えんといひしとしてすりて何し物と変ちうとんえて
天和物語

むしりて拾りなり者ある人合ひよ出てるの使よ
やはこれまりとり家探井ひとりわりにさけ
なれ人の家より女とけ子人のそ者くけいく人をみ
ふるさるかけたるふて不しまたるれるさ此門乃
りとしいそてりこのちこれ物いとふ乳月を
ちそそて法ちらいそよ子ちとけ是ちとけ女ちとて
ちくてふるよいと不ちまりけ是と物ことふと
う結ふふ我よあひ物ふ物ふ式よりり結ちん
物よまりちんといひてそ是と是ふ法ふん者れ
ちそてら物ちりりの者とと敬て

[illegible]
なりけれ[illegible]男[illegible]
名[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

黄男[illegible]
[illegible]
用之清和[illegible]中将近[illegible]
年[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

かりかへて　これわ是　我為　家ハ美しく　今ハ
しかも　何と　為　乃　次
宮人斜
幾多紅粉委黄泥　野鳥如歌又似啼
應有春魂化為鶯　年々飛入未央棲
めてく　ゆく　人と　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
百男　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
伯牙琴　一万法如此我と号す者
申案　慈恵和尚此所　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

分　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
當流一切不用之
愚案　天上天下唯我獨尊　此可相當之由
相談大林和尚之處同心被感者也
百男　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
辞世の付句
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ
ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ　ふ

或説ニ曰ク今ハ云フ所ノ流レヲ云テン餘テ
詞ヲ云フトモその程ヲ付ケリ別ニ云ハ何茂流ノ忍ヒ
打ケ様ニ所ノ名ヲ云フ所ヲ世間ノ程ヲ
ヒロメ云フ所ノ関伝
ヒロメ云フ所ノ関伝
直義ヤ古注ニ中将五平六元慶三年五月廿八日
死ヲ以テ當流兵法ハ分明ヨリ無サリ由茂流
乃習也一万事ニ知ヲ付シ義式相違ス
不限可有用捨事ヲヤ
祇公注

右抄為愚老道稱又子讃嘆之
抄為不具之矣又近年宗旨
之諸篇之類於其外宗祇法師
端々書かへ和之仲極秘也
心深自許相傳之儀
天正廿年暦十月冬下旬　玄蕃頭

九條殿積通公　右抄為愚老
御名有之

110X
102
1